

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第3805930号  
(P3805930)

(45) 発行日 平成18年8月9日(2006.8.9)

(24) 登録日 平成18年5月19日(2006.5.19)

(51) Int. Cl.		F I		
<b>B 6 5 D 83/40</b>	<b>(2006.01)</b>	B 6 5 D 83/14		E
<b>B 6 5 D 41/62</b>	<b>(2006.01)</b>	B 6 5 D 41/62		Z

請求項の数 6 (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願平11-222567	(73) 特許権者	000241625
(22) 出願日	平成11年8月5日(1999.8.5)		エム・エフ・ヴィ株式会社
(65) 公開番号	特開2001-48256(P2001-48256A)		大阪府東大阪市柏田本町15番8号
(43) 公開日	平成13年2月20日(2001.2.20)	(74) 代理人	100061745
審査請求日	平成15年3月12日(2003.3.12)		弁理士 安田 敏雄
		(72) 発明者	山中 康弘
			大阪府東大阪市柏田本町15番8号 豊國樹脂工業株式会社内
		審査官	山口 直
		(56) 参考文献	特開平10-167356(JP,A)
			特開平11-105955(JP,A)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 容器カバー及び容器カバー付き容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

内容物取出用ステム(6)と該ステム(6)を囲む環状のマウンテンキャップ(12)とが設けられた容器(5)の頭部(5a)に装着される容器カバーにおいて、

上記ステム(6)に嵌着されていてステム(6)を押し操作可能な噴出操作部(2)と、該噴出操作部(2)を除いて上記容器(5)の頭部(5a)を被蓋するカバー本体(3)とを有しており、

上記カバー本体(3)は、上記マウンテンキャップ(12)に内嵌して係合可能となる内固定枠(13)と、マウンテンキャップ(12)に外嵌して係合可能となる外固定枠(14)と、これら内外固定枠(13,14)を連結する天枠(15)とを有し、

上記外固定枠(14)には周方向の少なくとも1か所にマウンテンキャップ(12)に対する非係合部(21)が設けられていると共に、上記内固定枠(13)には外固定枠(14)の非係合部(21)からステム(6)位置を介した対称位置にマウンテンキャップ(12)に対する非係合部(24)が設けられており、

外固定枠(14)における内固定枠(13)の非係合部(24)とほぼ対応する部位では当該外固定枠(14)が、また内固定枠(13)における外固定枠(14)の非係合部(21)とほぼ対応する部位では当該内固定枠(13)が、それぞれマウンテンキャップ(12)に係合可能な状態を確保されており、

外固定枠(14)において非係合部(21)が設けられている位置に対応して、この位置で噴出操作部(2)とカバー本体(3)の少なくとも噴出操作部(2)の側面を横押し

10

20

することによって噴出操作部(2)とカバー本体(3)とが一体とされてマウンテンキャップ(12)から取り外し可能とされ、

前記噴出操作部(2)の根元部まわりには、連結部(8)を除いて周溝(9)が設けられ、前記噴出操作部(2)及び前記カバー本体(3)は該連結部(8)を介して一体形成されていることを特徴とする容器カバー。

【請求項2】

下方へ押ししたときに前記噴出操作部(2)を傾動して容器(5)のステム(6)を押し、容器(5)の内容物を噴出させる押釦部(7)を有することを特徴とする請求項1記載の容器カバー。

【請求項3】

内容物取出用ステム(6)と該ステム(6)を囲む環状のマウンテンキャップ(12)とが設けられた容器(5)の頭部(5a)に装着される容器カバーにおいて、

上記ステム(6)に嵌着されていてステム(6)を押し操作可能な噴出操作部(2)と、該噴出操作部(2)を除いて上記容器(5)の頭部(5a)を被蓋するカバー本体(3)とを有しており、

上記カバー本体(3)は、上記マウンテンキャップ(12)に内嵌して係合可能となる内固定枠(13)と、マウンテンキャップ(12)に外嵌して係合可能となる外固定枠(14)と、これら内外固定枠(13, 14)を連結する天枠(15)とを有し、

上記外固定枠(14)には周方向の少なくとも1か所にマウンテンキャップ(12)に対する非係合部(21)が設けられていると共に、上記内固定枠(13)には外固定枠(14)の非係合部(21)からステム(6)位置を介した対称位置にマウンテンキャップ(12)に対する非係合部(24)が設けられており、

外固定枠(14)における内固定枠(13)の非係合部(24)とほぼ対応する部位では当該外固定枠(14)が、また内固定枠(13)における外固定枠(14)の非係合部(21)とほぼ対応する部位では当該内固定枠(13)が、それぞれマウンテンキャップ(12)に係合可能な状態を確保されており、

外固定枠(14)において非係合部(21)が設けられている位置に対応して、この位置で噴出操作部(2)とカバー本体(3)の内の少なくとも噴出操作部(2)の側面を横押しすることによって噴出操作部(2)とカバー本体(3)とが一体とされてマウンテンキャップ(12)から取り外し可能とされ、

前記噴出操作部(2)とカバー本体(3)とは別部材で形成されかつカバー本体(3)に対して抜止めのための係合鏝(33)が設けられていることを特徴とする容器カバー。

【請求項4】

前記内固定枠(13)の非係合部(24)、若しくは前記外固定枠(14)の非係合部(21)が、マウンテンキャップ(12)には未当接となる切欠(20)(23)として形成されていることを特徴とする請求項1乃至請求項3のいずれかに記載の容器カバー。

【請求項5】

前記外固定枠(14)の非係合部(21)及び前記内固定枠(13)の非係合部(24)が、周方向に複数設けられていることを特徴とする請求項1乃至請求項4のいずれかに記載の容器カバー。

【請求項6】

請求項1乃至請求項5のいずれかに記載の容器カバー(1)を容器頭部(5a)に装着していることを特徴とする容器カバー付き容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する利用分野】

本発明は、容器カバー及び容器カバー付き容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

化粧品類をはじめ、各種薬剤や溶液等を詰めたエアゾール容器等の容器では、その頭部に

10

20

30

40

50

、内容物の取出機能を有する容器カバーが装着されている。

この容器カバーは、容器の頭部に設けられた内容物取出用のステムに対して嵌着される噴出操作部と、この噴出操作部を除いて容器の頭部を被蓋するカバー本体とを有した構成となっており、噴出操作部による内容物の取出形態として、ムースタイプとスプレータイプとに大別される。

#### 【0003】

なお、噴出操作部とカバー本体とは、互いに一体形成されている場合や、それぞれ別部材であるが不可分一体に組み立てられている場合、及び別部材を別個独立した状態で容器に組み付けられている場合がある。

このような容器カバーは一般にプラスチック製であり、これに対して容器はアルミやスチール等の金属製であるか又はガラス製である。従って、環境問題が叫ばれている昨今では、使用済み後の廃棄時にこれら容器カバーと容器とを分別することが使用者側に求められている。

10

#### 【0004】

ところで、容器の頭部には、上記ステムを囲むようにして環状のマウンテンキャップが設けられており、容器カバーは、このマウンテンキャップを外嵌しつつ係合する円筒形の固定枠を有して、この固定枠を介して容器に装着するものとなっている。

従来、このような構造で容器に装着されている容器カバーを、その廃棄時に取り外せるようにするためには、固定枠における周方向の一部に当初より切欠を設けておくと共に、この切欠に対応する外周面位置又は天面に、この切欠をステム位置方向へ向けて側方押圧させるべく促す表示部を設ける構造を採用していた（特開平10-17040号公報、特開平10-167356号公報、特開平10-230197号公報、特開平10-245082号公報等参照）。

20

#### 【0005】

##### 【発明が解決しようとする課題】

従来において、容器から容器カバーを取り外すために採られていた上記の構造では、固定枠の周方向一部に切欠を設けているため、この切欠では当然のことながらマウンテンキャップとの係合は行われていないことになる。

従って、このことが必要時における容器カバーの取り外しを容易にしているものであるが、裏を返せば、この切欠では意図しないとき（廃棄時でないとき）でも容器カバーを外れ易くするから、実際に、容器の一般的な取り扱い中であるにも拘わらず、容器から容器カバーが外れてしまうということがあった。

30

#### 【0006】

本発明は、上記事情に鑑みてなされたものであって、廃棄時等の必要時には簡単に容器カバーを容器から取り外すことができるようにし、しかし必要時以外には容器から容器カバーが簡単に外れてしまうことがないようにできる容器カバー及び容器カバー付き容器を提供することを目的とする。

#### 【0007】

##### 【課題を解決するための手段】

本発明では、上記目的を達成するために、次の技術的手段を講じた。

40

即ち、本発明に係る容器カバーは、内容物取出用ステムとこのステムを囲む環状のマウンテンキャップとが設けられた容器の頭部に装着されるものであって、上記ステムに嵌着される噴出操作部と、この噴出操作部を除いて上記容器の頭部を被蓋するカバー本体とを有している。

そして、このうちカバー本体は、上記マウンテンキャップに内嵌して係合可能となる内固定枠と、マウンテンキャップに外嵌して係合可能となる外固定枠と、これら内外固定枠を連結する天枠とを有している。すなわち、少なくとも内固定枠と外固定枠との二重の固定枠を有したものである。

#### 【0008】

また、上記外固定枠には、周方向の少なくとも1か所にマウンテンキャップに対する非係

50

合部が設けられていると共に、上記内固定枠には、外固定枠の非係合部からステム位置を介した対称位置にマウンテンキャップに対する非係合部が設けられている。

この場合、外固定枠においては、内固定枠の非係合部とほぼ対応する部位で、この外固定枠がマウンテンキャップに係合可能な状態を確保されていることが重要とされる。また、内固定枠においては、外固定枠の非係合部とほぼ対応する部位で、この内固定枠がマウンテンキャップに係合可能な状態を確保されていることが重要とされる。

#### 【0009】

このような構成であると、外固定枠において非係合部が設けられた部分では内固定枠がマウンテンキャップに係合しており、また内固定枠において非係合部が設けられた部分では外固定枠がマウンテンキャップに係合していることになるため、結果として、外固定枠及び内固定枠の共同体として、マウンテンキャップにほぼ全周的に係合していることになる。

10

そのため、廃棄時等の必要時には外固定枠において非係合部が設けられた位置に対応して側面押圧すれば、容器カバーを容器から簡単に取り外すことができるものであり、必要時以外では（意欲をもって外そうとしない限りは）、容器から容器カバーが外れないもの、或いは外れ難いものとなる。

#### 【0010】

カバー本体には、外固定枠の非係合部が設けられた周方向位置に対応して、側方押圧を促す表示部を設けておくのが好ましい。

このようにすることで、操作位置を見つけや易くなる。

20

内固定枠の非係合部は、マウンテンキャップには未当接となる切欠として形成しておくのが好適である。

このようにすることで、一層、外しやすくなる。

カバー本体に対して外固定枠を被覆する肩カバー部が設けられている場合であれば、前記外固定枠の非係合部は、マウンテンキャップには未当接となる切欠として形成しておくのが好適である。

#### 【0011】

このようにすることで、一層、外しやすくなる。

外固定枠の非係合部及び前記内固定枠の非係合部は、周方向に複数設けておくことができる。

30

このようにすれば、操作位置が多くなることに伴って操作位置を見つけやすいと言うことに繋がり、結果として外しやすくなることになる。また、外固定枠や内固定枠において可撓性が増すことに繋がるため、このことも、外しやすさを助長するものとなる。

#### 【0012】

一方、本発明に係る容器カバー付き容器では、上記構成の容器カバーを容器頭部に装着したものであり、上記作用効果を得ることができるものである。

#### 【0013】

##### 【発明の実施の形態】

以下、図面に基づいて本発明の実施の形態を説明する。

図1乃至図4は、本発明に係る容器カバー1の第1実施形態を示している。

40

図2及び図3に示すように、この容器カバー1は、噴出操作部2とカバー本体3とを有したもので、噴出操作部2は、容器5の頭部5aに設けられた内容物取出用のステム6に対して嵌着されるようになっており、またカバー本体3は、この噴出操作部2を除いて容器5の頭部5aを被蓋するようになっている。

#### 【0014】

この第1実施形態において、噴出操作部2における内容物の取出形態はムースタイプとされており、従ってこの噴出操作部2は、やや先細りとなるパイプ状に形成され、その根元部には側方へ膨出するかたちで押釦部7が設けられている。

噴出操作部2の根元部まわりには、細幅に形成された1か所の連結部8を除いて略1周する周溝9が設けられている。すなわち、これら噴出操作部2及びカバー本体3は、連結部

50

8を介して互いに一体形成されている。これらの形成素材としては、ポリプロピレン、ポリエチレン、ABS等の適宜プラスチックが用いられている。

【0015】

従って、連結部8にはある程度の可撓性が与えられた状態となり、この可撓性に基づき、噴出操作部2は、押釦部7を下方へ押したときに傾動自在となっている。この噴出操作部2の傾動により、容器5のステム6を押して容器5の内容物を噴出させるものである。なお、容器5は、アルミやスチール等の金属製、又はガラス製とされており、その頭部5aには、上記したステム6を囲むようにして環状のマウンテンキャップ12が設けられている。

【0016】

上記カバー本体3は、容器5のマウンテンキャップ12を利用して、これに係合することで容器5の頭部5aに装着されるようになっている。すなわち、このカバー本体3は内固定枠13と外固定枠14、及びこれら内外固定枠13, 14を連結する天枠15並びに外固定枠14のまわりを被覆する肩カバー部16とを有している。

なお、肩カバー部16は、容器5の外周面をそのまま同径で立ち上げた状態とし、そのうえで外膨らみ状のアールを伴いながら中心方向へ延びて外固定枠14のまわりを被覆するようになっている。

【0017】

内固定枠13は、マウンテンキャップ12に内嵌可能な直径を有する円筒形に形成されたもので、その下端部の外周面には、径方向外方へ少しだけ膨出して上記マウンテンキャップ12の内周部に係合可能となる係合凸条17が設けられている。

また外固定枠14は、マウンテンキャップ12に外嵌可能な直径を有する円筒形に形成されたもので、その下端部の内周面には、径方向内方へ少しだけ膨出して上記マウンテンキャップ12の外周部に係合可能となる係合凸条18が設けられている。

【0018】

図3及び図4に示すように、上記外固定枠14には、その周方向の1か所に、マウンテンキャップ12には未当接となる切欠20が設けられている。この切欠20の部分では、同時に係合凸条18も除去されたかたちになるので、これによってマウンテンキャップ12に対する非係合部21が形成されることになる。

また、上記内固定枠13でも同じように、その周方向の1か所に、マウンテンキャップ12には未当接となる切欠23が設けられている。この切欠23の部分では、同時に係合凸条17も除去されたかたちになるので、これによってマウンテンキャップ12に対する非係合部24が形成されることになる。

【0019】

そして、外固定枠14に設けられる非係合部21と、内固定枠13に設けられる非係合部24とは、互いにステム6の位置を介した対称位置に配されたものとなっている。

外固定枠14において、その非係合部21が設けられる部分以外は、全て、この外固定枠14がマウンテンキャップ12に係合可能な状態を確保されていることになり、また内固定枠13において、その非係合部24が設けられる部分以外は、全て、この内固定枠13がマウンテンキャップ12に係合可能な状態を確保されていることになるので、その結果、外固定枠14の非係合部21位置では必ず内固定枠13がマウンテンキャップ12に係合し、また内固定枠13の非係合部24位置では必ず外固定枠14がマウンテンキャップ12に係合するようになる。

【0020】

すなわち、このカバー本体3は、これら内外固定枠13, 14の共同体として、マウンテンキャップ12に全周的に係合していることになる。従って、容器5からカバー本体1が簡単に外れてしまうということはない。

また、このように内外固定枠13, 14による二重構造にすると、容器5に対する容器カバー1の回転を抑えることができるようになり、それだけ容器5として使いやすくなると共に、このような回転を原因として内固定枠13や外固定枠14が変形を起こすこともな

10

20

30

40

50

くなり、意図しないときに容器 5 からカバー - 体 1 が外れるのを防止する効果も、それだけ高くなる。

【 0 0 2 1 】

なお、図 2 に示すように、カバー本体 3 の天枠 1 5 上面や肩カバー部 1 6 の上面又は外周面には、外固定枠 1 4 において非係合部 2 1 が設けられている周方向位置に対応して、この位置を側方押圧するように促すための表示部 2 5 , 2 6 が設けられている。

この表示部 2 5 , 2 6 は、矢印や星印、円形、多角形等の図形又は文字でもよく、またその設け方も、成形と同時の浮き出し又は凹ませによるものをはじめ、成型後の刻印、着色、印刷、シール貼付等、適宜方法を採用可能である。

【 0 0 2 2 】

また、2つの表示部 2 5 , 2 6 は、いずれか一方だけ設けるだけでも足りる。

このような構成の容器カバー 1 にあって、いまこの容器カバー 1 が容器 5 の頭部 5 a に装着された状態にあるものとして、容器 5 の内容物を使いきったことによって廃棄するのに先駆けて、この容器カバー 1 を容器 5 から取り外す場合を説明する。

容器カバー 1 を外すには、外固定枠 1 4 において非係合部 2 1 が設けられている周方向位置に対応して、この位置を側方押圧するようにするが、このとき、天枠 1 5 の上面に設けられた表示部 2 5 にしたがって、図 3 及び図 1 中に矢符 X で示すように噴出操作部 2 の側面を横押ししたとする。

【 0 0 2 3 】

すると、噴出操作部 2 は、ステム 6 を押し込む範囲を超えて傾動するようになり、これに伴って容器カバー 1 全体に横移動しようとする力が加えられる。このとき、この横移動方向の前方側では、マウンテンキャップ 1 2 の内周部に対して内固定枠 1 3 の非係合部 2 4 が対応しており、従ってこのマウンテンキャップ 1 2 の内アールに沿いつつ非係合部 2 4 、即ち、切欠 2 3 における周方向両側の開口縁部が幅詰め状に対向接近されるようになる。

そのため、内固定枠 1 3 は縮径状態となり、これに伴って容器カバー 1 全体としての上記横移動状況は、一層、進行されることになる。

【 0 0 2 4 】

これに対し、容器カバー 1 全体の横移動における横移動方向の後方側では、マウンテンキャップ 1 2 の外周部に対して外固定枠 1 4 の非係合部 2 1 が対応しており、従って容器カバー 1 全体としての上記横移動に支障は生じないものとなっている。

このようなことから、容器カバー 1 は上記の横移動によって、簡単に、容器 5 から取り外せることになる。

一方、容器カバー 1 を外すときに、肩カバー部 1 6 の上面に設けられた表示部 2 6 にしたがって、図 3 及び図 1 中に矢符 Y で示すように肩カバー部 1 6 の側面を横押ししたとする。

【 0 0 2 5 】

すると、容器カバー 1 全体に直接、横移動しようとする力が加えられ、この力はまた、肩カバー部 1 6 と共に外固定枠 1 4 を移動方向に対する両側方へ拡大させ移動方向へ短縮化する向きに、偏心状の変形を起こさせることになる。このとき、内固定枠 1 3 の非係合部 2 4 において切欠 2 3 の開口縁部が幅詰め状に対向接近され、これによって内固定枠 1 3 が縮径すること、及び外固定枠 1 4 の非係合部 2 1 が容器カバー 1 全体としての上記横移動に支障を生じさせないことは、噴出操作部 2 の側面を矢符 X で示すように横押しした上記の場合と略同じである。

【 0 0 2 6 】

このようなことから、容器カバー 1 は上記の横移動によって、簡単に、容器 5 から取り外せることになる。

図 5 は、本発明に係る容器カバー 1 の第 2 実施形態を示している。

この第 2 実施形態において、上記第 1 実施形態と異なるところは、外固定枠 1 4 に設けた非係合部 2 1 を、当該外固定枠 1 4 中においてその半周より更に広範囲を占めるものとし

10

20

30

40

50

、これにより外固定枠 1 4 において係合凸条 1 8 が形成される範囲が、丁度、内固定枠 1 3 に設けた非係合部 2 4 とオーバーラップするようになっている点にある。

【 0 0 2 7 】

内固定枠 1 3 に設けた非係合部 2 4 は、上記第 1 実施形態の場合と同じ範囲にしてある。その他の構成及び作用効果については、上記第 1 実施形態の場合と略同じである。図 6 は、本発明に係る容器カバー 1 の第 3 実施形態を示している。この第 3 実施形態において、上記第 1 実施形態と異なるところは、内固定枠 1 3 に設けた非係合部 2 4 を、当該内固定枠 1 3 中においてその半周より更に広い範囲を占めるものとし、これにより内固定枠 1 3 において係合凸条 1 7 が形成される範囲が、丁度、外固定枠 1 4 に設けた非係合部 2 1 とオーバーラップするようになっている点にある。

10

【 0 0 2 8 】

外固定枠 1 4 に設けた非係合部 2 1 は、上記第 1 実施形態の場合と同じ範囲にしてある。その他の構成及び作用効果については、上記第 1 実施形態の場合と略同じである。

図 7 は、本発明に係る容器カバー 1 の第 4 実施形態を示している。

この第 4 実施形態において、上記第 1 実施形態と異なるところは、外固定枠 1 4 及び内固定枠 1 3 において、それらの非係合部 2 1 , 2 4 をいずれも周方向の 3 等配位置へ振り分け状に複数設けるものとし、且つ、これら外固定枠 1 4 の非係合部 2 1 と内固定枠 1 3 の非係合部 2 4 とが、交互配置となっている点にある。

【 0 0 2 9 】

この第 4 実施形態では、容器カバー 1 に対して側面押圧を可能とする操作位置も、3 か所に設けられることになる。

20

また、操作位置を図 7 に示すように Y a , Y b , Y c とおくとき、Y a 位置への押圧操作を受ける構造として、上記第 1 実施形態の場合と同様に外固定枠 1 4 の非係合部 2 1 A が切欠 2 0 とされ、内固定枠 1 3 の非係合部 2 4 A が切欠 2 3 とされたものとなっているが、Y b 位置への押圧操作を受ける構造としては、外固定枠 1 4 の非係合部 2 1 B は切欠 2 0 を伴わず係合凸条 1 8 を除去しただけのものとされ、また内固定枠 1 3 の非係合部 2 4 B も切欠 2 3 を伴わず係合凸条 1 7 を除去しただけのものとされている。

【 0 0 3 0 】

また、Y c 位置への押圧操作を受ける構造としても、外固定枠 1 4 の非係合部 2 1 C は切欠 2 0 を伴わず係合凸条 1 8 を除去しただけのものとされ、また内固定枠 1 3 の非係合部 2 4 C も切欠 2 3 を伴わず係合凸条 1 7 を除去しただけのものとされている。

30

このような構成でも、作用効果としては上記第 1 実施形態の場合と略同じものが得られる。

図 8 及び図 9 は、本発明に係る容器カバー 1 の第 5 実施形態を示している。

【 0 0 3 1 】

この第 5 実施形態は、噴出操作部 2 による内容物の取出形態がスプレータイプとされたもので、この噴出操作部 2 を押込み操作したときに、当該噴出操作部 2 の内部に形成された通路 3 0 からノズル 3 1 を介して容器 5 の内容物が噴出するようになっている。

また、この噴出操作部 2 は、カバー本体 3 とは別部材のものとして形成されているが、このカバー本体 3 に対して不可分一体の状態に組み立てられている。

40

従ってこの第 5 実施形態でも、上記した第 1 実施形態と同じく、図 9 中に矢符 Y で示す部位だけでなく、同矢符 X で示す部位、即ち、噴出操作部 2 の側面を横押しすることによって容器カバー 1 を容器 5 から取り外すことができるというものである。

【 0 0 3 2 】

その他の構成及び作用効果については、上記第 1 実施形態の場合と略同じである。また、第 2 乃至第 4 実施形態で説明した第 1 実施形態との各種差異構成を、この第 5 実施形態に採り入れることもできる。

図 1 0 及び図 1 1 は、本発明に係る容器カバー 1 の第 6 実施形態を示している。

この第 6 実施形態も、噴出操作部 2 による内容物の取出形態がスプレータイプとされたものである。またこの噴出操作部 2 は、カバー本体 3 とは別部材のものとして形成されてい

50

る。上記第6実施形態との差異は、この第6実施形態の噴出操作部2がカバー本体3とは別個独立した状態で容器5に組み付けられている点にある。

【0033】

ただ、この噴出操作部2には、カバー本体3に対して抜止めのための係合罫33が設けられているため、この第6実施形態でも、図11中に矢符Yで示す部位だけでなく、同矢符Xで示す部位、即ち、噴出操作部2の側面を横押しすることによって容器カバー1を容器5から取り外すことができるというものである。その他の構成及び作用効果については、上記第1実施形態の場合と略同じである。また、第2乃至第5実施形態で説明した第1実施形態との各種差異構成を、この第6実施形態に採り入れることもできる。

【0034】

図12及び図13は、本発明に係る容器カバー1の第7実施形態を示している。この第7実施形態は、上記第1実施形態の場合と同様に、噴出操作部2による内容物の取出形態がムースタイプとされたものである。上記第1実施形態と異なるところは、外固定枠14のまわりを被覆する肩カバー部16が撫で肩状に傾斜状態で設けられている点にある。

従って、このような肩カバー部16であると、この肩カバー部16の外周面を側方押圧しても、これによって外固定枠14を偏心状変形させることは非常に困難となる。そこでこの第7実施形態において、容器カバー1を容器5から取り外すための側面押圧は、噴出操作部2の側面を横押しする方法(矢符X参照)だけに依存することになる。

【0035】

また、この第7実施形態では、外固定枠14に設ける非係合部21として、切欠20を伴わず係合凸条18を除去しただけのものとしている。

なお、この第7実施形態についても、第2乃至第4実施形態で説明した第1実施形態との各種差異構成を採用可能である。

特に、図14は、第7実施形態を基礎とした場合において、第1実施形態から第4実施形態(図7参照)への展開と同パターンで変形を加えた場合の第8実施形態であるが、この図14から明らかなように、外固定枠14及び内固定枠13においてそれらの非係合部21, 24を周方向に複数設けることは可能であり、このことと、上記のように噴出操作部2の側面を横押しする方法だけに依存することに起因してその操作位置(側面押圧の方向)が一義的に固定されることとは、必ずしも整合させる必要はない。

【0036】

図15及び図16は、本発明に係る容器カバー1の第9実施形態を示している。この第9実施形態は、上記第7及び第8実施形態の場合と同様に、噴出操作部2による内容物の取出形態がムースタイプとされたもので、上記第7及び第8実施形態と異なるところは、外固定枠14のまわりに肩カバー部16が無い点にある。

この第9実施形態におけるその他の事情は、全て上記第7及び第8実施形態の場合と同じである。

【0037】

図17は、本発明に係る容器カバー1の第10実施形態を示している。この第10実施形態において、第1実施形態と異なるところは、以下の通りである。すなわち、第1実施形態では、図4に示すように、内外の係合凸条17, 18は周方向にオーバーラップしており、カバー本体3は、内外固定枠13, 14の共同として、マウンテンキャップ12に完全に全周的に係合しているのに対して、第10実施形態では、内外の係合凸条17, 18は、周方向に間隔(非オーバーラップ部)dにおいて配置されており、内外固定枠13, 14とマウンテンキャップ12との係合は、完全ではないが、ほぼ全周的なものとなっている。また、言い換えれば、第10実施形態では、内外の切欠20, 23(非係合部21, 24)が周方向に一部オーバーラップしている。このようなものであっても、本発明の目的を十分に達成することができる。

【0038】

図18は、本発明に係る容器カバー1の第11実施形態を示している。この第11実施

10

20

30

40

50

形態において、第1実施形態と異なるところは、以下の通りである。すなわち、第1実施形態では、外固定枠14の非係合部21は、切欠20を設けることによって形成されていたが、この第1実施形態では、非係合部21は、マウンテンキャップ12に未当接となる離間部30によって形成されている。この離間部30は、外固定枠14が外径方向に屈曲して形成されたものであって、この屈曲した離間部30では、外側の係合凸条18がマウンテンキャップ12から逃げており未当接となる。

【0039】

なお、図18では、外固定枠14の非係合部21が離間部30によって構成されたものを示したが、内固定枠13の非係合部24も同様に離間部によって構成してもよい。この場合、内固定枠13を内径方向に屈曲して形成すればよい。このように、非係合部21、24としては、固定枠13、14に切欠20、23を設けたものや、係合凸条17、18を除去したものの他、離間部30を設けたものとすることもできる。本発明は、上記各実施形態以外にも、各種の変更等が可能である。

【0040】

【発明の効果】

以上の説明から明らかなように、本発明に係る容器カバーにおいてカバー本体は、容器のマウンテンキャップに内嵌及び外嵌する内外二重の固定枠を有し、これら両固定枠にはステム位置を介した対称配置に非係合部が設けられ、そして外固定枠の非係合部位置では内固定枠がマウンテンキャップに係合し、また内固定枠の非係合部位置では外固定枠がマウンテンキャップに係合するようになっている。

【0041】

そのため、廃棄時等の必要時には外固定枠の非係合部位置に対応して側面押圧すれば、容器カバーを容器から簡単に取り外すことができるものであり、必要時以外では（意欲をもって外そうとしない限りは）、内外両固定枠が共同してマウンテンキャップにほぼ全周的に係合しているために、容器から容器カバーが簡単に外れてしまうことはない。

一方、本発明に係る容器カバー付き容器では、上記構成の容器カバーを容器頭部に装着したものであり、上記作用効果を得ることができるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る容器カバーの第1実施形態について容器から取り外す様子を示した側断面図である。

【図2】図3に対応する平面図である。

【図3】本発明に係る容器カバーの第1実施形態を示す側断面図である。

【図4】図3に対応する底面（裏面）図である。

【図5】本発明に係る容器カバーの第2実施形態について図4と比較し易く示した底面（裏面）図である。

【図6】本発明に係る容器カバーの第3実施形態について図4と比較し易く示した底面（裏面）図である。

【図7】本発明に係る容器カバーの第4実施形態について図4と比較し易く示した底面（裏面）図である。

【図8】図9に対応する平面図である。

【図9】本発明に係る容器カバーの第5実施形態を示す側断面図である。

【図10】図11に対応する平面図である。

【図11】本発明に係る容器カバーの第6実施形態を示す側断面図である。

【図12】本発明に係る容器カバーの第7実施形態を示す側断面図である。

【図13】図12に対応する底面（裏面）図である。

【図14】本発明に係る容器カバーの第8実施形態について図13と比較し易く示した底面（裏面）図である。

【図15】本発明に係る容器カバーの第9実施形態を示す側断面図である。

【図16】図15に対応する底面（裏面）図である。

【図17】本発明に係る容器カバーの第10実施形態について図4と比較し易く示した底

10

20

30

40

50

面（裏面）図である。

【図18】本発明に係る容器カバーの第11実施形態について図4と比較し易く示した底面（裏面）図である。

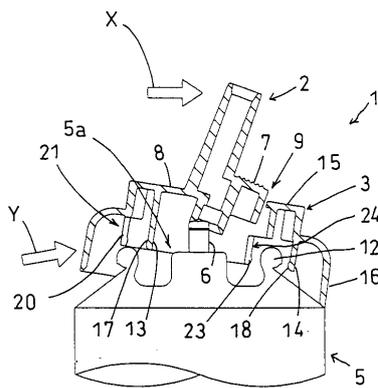
【符号の説明】

- 1 容器カバー
- 2 噴出操作部
- 3 カバー本体
- 5 容器
- 5 a 頭部
- 6 ステム
- 12 マウンテンキャップ
- 13 内固定枠
- 14 外固定枠
- 15 天枠
- 16 肩カバー部
- 20 切欠（外固定枠の非係合部）
- 21 外固定枠の非係合部
- 23 切欠（内固定枠の非係合部）
- 24 内固定枠の非係合部
- 25 表示部
- 26 表示部

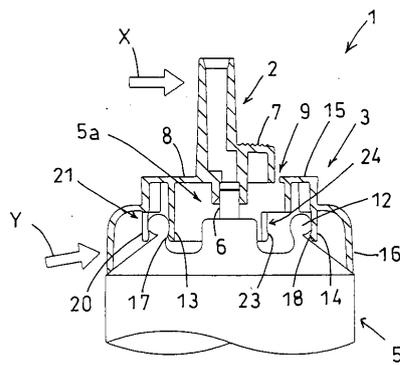
10

20

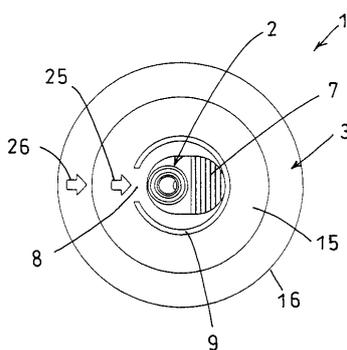
【図1】



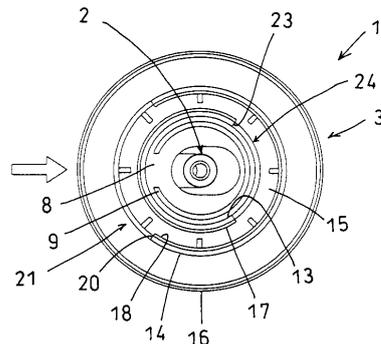
【図3】



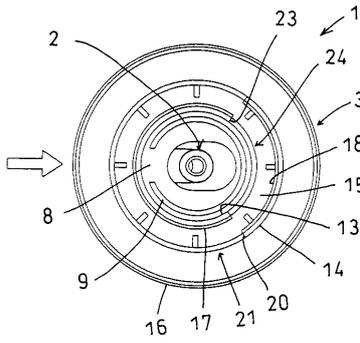
【図2】



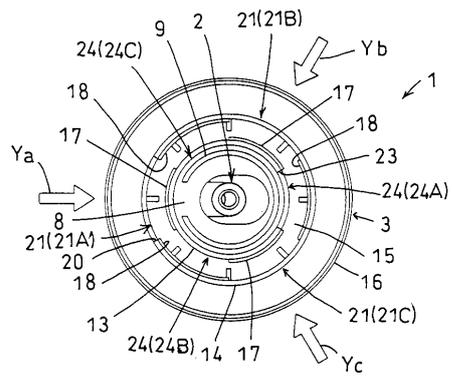
【図4】



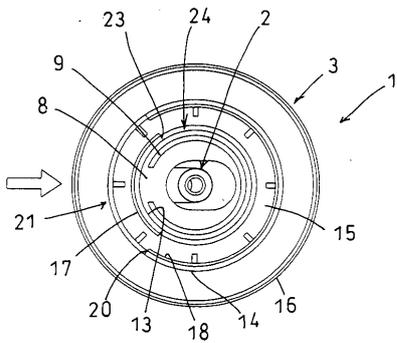
【 図 5 】



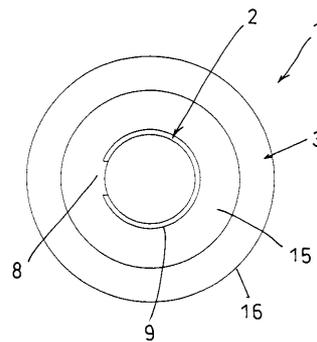
【 図 7 】



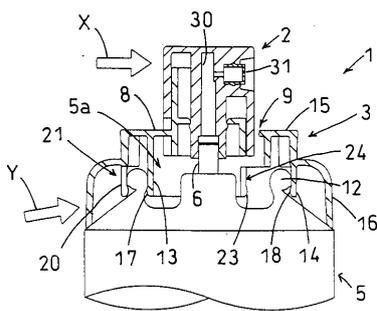
【 図 6 】



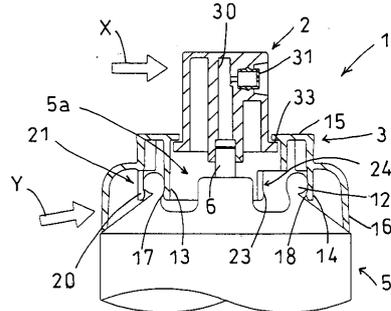
【 図 8 】



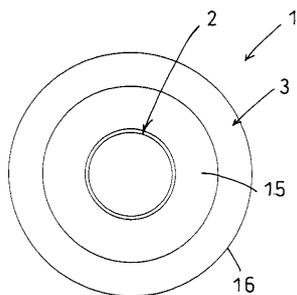
【 図 9 】



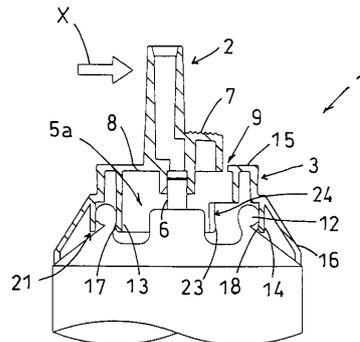
【 図 1 1 】



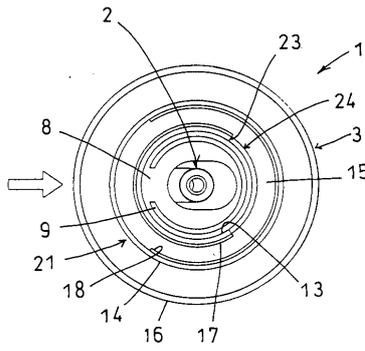
【 図 1 0 】



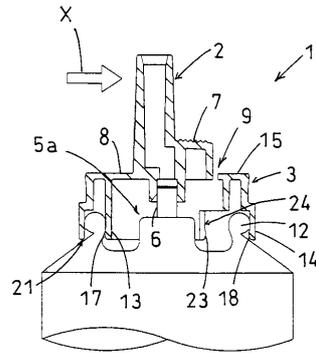
【 図 1 2 】



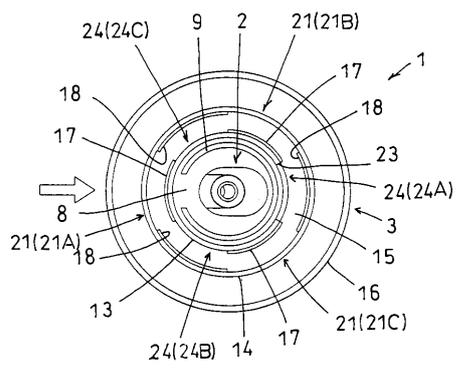
【 図 1 3 】



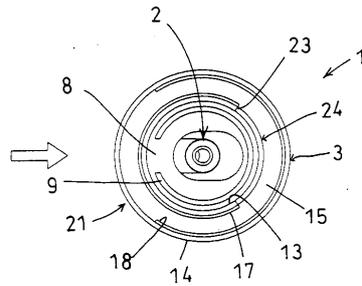
【 図 1 5 】



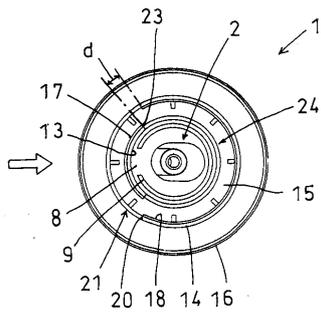
【 図 1 4 】



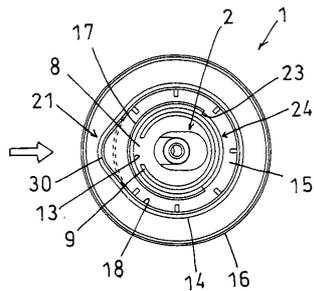
【 図 1 6 】



【 図 1 7 】



【 図 1 8 】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B名)

B65D 35/44-35/54

B65D 39/00-55/16

B65D 83/00

B65D 83/08-83/14